

シリーズ対談(第1回)： 大学評価とFDは質保証の両輪



公文 溥 [大学評価室長] × 川上 忠重 [FD推進センター長]

法政大学における内部質保証のあり方を考える企画として「シリーズ対談」をスタートさせました。第1回は、FD推進センター長・理工学部教授 川上忠重氏をお招きしました。

＋大学評価室の2009年度の取組

公文 本日は、大学評価室とFD推進センターの協力に関してお話をしたいと思います。まず、私のほうから2009年度の評価室の活動を紹介させていただきます。自己点検評価活動が中心ですがその成果は『法政大学自己点検評価報告書』として公表いたしました。さらに満足度に焦点を合わせて、卒業生、新入生、保護者からのアンケート調査を行いました。そして、新たな情報システム(可視化システム)も構築しました。この1年間の活動を踏まえて、2010年度の自己点検活動の課題としては、内部質保証の実質化と到達目標の修正・追加の二つをあげております。

＋教育開発支援機構 FD推進センターの活動状況

川上 教育開発支援機構FD推進センターでは、『自由と進歩』の建学の精神に基づく教育理念と教育目標を達成するためになされる、教育及び学びの質の向上を目的とした教員・職員・学生による組織的・継続的な取り組みを、FDと定義する』としています。この定義に基づき、単位の実質化で求められる学習の促進方法などについて各教学単位で話し合うためのツールとして「振り返りシート」の提供や、本学のFD活動のさらなる推進のため各種テーマのシンポジウム及びフォーラム開催、「授業改善」のための「学生による授業改善アンケート」、「FD学生の声コンクール」の実施、新入生向け「学習支援ハンドブック」や「法政大学教育研究」等も発刊しています。

＋質保証の「両輪」

公文 ところで、大学は、人材育成機関としての意義を問われています。ディプロマポリシー(如何なる能力を持った学生を育成するのか)を明確にし、そのためのカリキュラムおよびアドミッションポリシーを立てることを社会から要請されております。いうまでもなく学部等がポリシーの実行主体となりますが、それを支援する学内

組織は二つあるとおもいます。大学評価室とFD推進センターです。この二つの支援組織が質保証と向上の両輪です。評価室は、各運用単位に質保証と向上に関する組織としての自己認識を促し、課題を示すことが任務で、FD推進センターは質保証と向上のための教職員による具体的・組織的な取り組みを提案し支援することが課題だと思います。二つの組織は別々に設置されたのですが、連携関係を持つ時期に来たと思います。

＋FD推進センターとしての抱負

川上 公文大学評価室長がおっしゃったように、中央教育審議会から2008年12月に発表された「学士課程教育の構築に向けて(答申)」では、「学士課程教育の充実のための具体的な取り組みとして、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針の三点」を改善すべきであると指摘されました。学士課程教育と教育の質保証という総合的な観点からの議論や提案は、当然、全学として取り組まなければならない、また、これらを成し遂げるためにFD推進センターとしても、さらに入口と出口に対する接続を踏まえつつ、大学評価室と協力しながら、教育の質的向上に向けた全学的な教育支援施策の企画・開発、より実効的なFDの推進と各学部等と密接した形でのFD活動の支援を行っていきたいと考えています。

＋学部内の自己点検とFD

公文 大学評価室は、前述のように各学部の内部質保証システムの構築を課題として掲げています。それは、大学評価室の仕事が単に大学基準協会の認証評価を受けるためだけに終わらず、各学部の継続的な改善・改革のシステムの構築を支援することにあるからと考えます。FD推進センターにも、大学の全体的なFD施策の提案とともに、学部内部におけるFD推進体制の構築の応援を期待します。それによって、各学部内部における自己点検評価活動と連動したFD活動が可能になるからです。